

「東京 MX の番組がヘイトだと抗議されていることに違和感があるのですが？」

平成 29 年 1 月 31 日

●チーム西田からの質問

東京 MX の番組がヘイトだと抗議されていることに違和感があるのですが？

●西田昌司の答え

先日、朝日新聞が『「沖縄ヘイト」批判、MX 幹部「チェック甘かった」』という記事を載せました。東京 MX テレビの「ニュース女子」という番組が沖縄で行われている基地反対運動について報道しましたが、その番組内での「韓国人がなぜ反対運動に参加するのか」といった類の発言がヘイトスピーチに該当するという趣旨の記事で、朝日新聞は同番組を批判しています。

番組内で「反対派の黒幕」「親北派」として名前を挙げられた人権団体「のりこえねっと」共同代表の辛淑玉（シンスゴ）さんという在日コリアン 3 世の女性が、放送倫理・番組向上機構（BPO）の放送人権委員会に人権侵害の申し立てをしたと報じられています。制作会社（化粧品大手「株式会社ディーエイチシー」の子会社「DHCシアター」）は、人種差別的な発言や歪曲があったとする批判に対しては「問題ない」との見解を公表していますが、東京 MX テレビの幹部はチェックが不十分だったと認めたとのこと。

私は同番組を視聴してはいませんが、朝日新聞の記事を読んで判断すると、朝日新聞はとんでもない言いがかりをつけているとしか思えません。韓国人をはじめ多くの外国人が沖縄の基地の反対運動をしています。そのような状況に対して日本人が「なぜ韓国人が日本の基地についての反対運動を

しているのだ」と批判しても、当然のことながらヘイトスピーチに該当するはずがありません。

参議院の法務委員会での議論の際も、日本共産党の仁比聡平議員が「在日米軍のありようを批判する人々が米軍は日本から出ていけなどの声を上げる言動」はヘイトスピーチに該当するのかどうかといった質問をされましたが、そこで発議者である私は「そもそも適法に居住する方々を排除するという目的でやっている」のがヘイトスピーチであるし、「米軍というアメリカの軍隊（中略）は元々この中には入っておりません」と答弁して、在日米軍を批判する行為はヘイトスピーチには該当しないと説明しています。また、「いわゆる沖縄の基地などの前でされている活動というのは（中略）政策に対する批判であったりだと思います。（中略）そういうことは憲法上許される表現の自由の一番大事なところでもあります」と付け加えて、表現の自由がいかに大切であるかを私は説いています。

私がヘイトスピーチとして問題にしていたのは、例えば在日コリアンが多く住む川崎市の桜本地区で行われたデモのように、反社会的な政治的意図をなんら持たずに平穏に暮らしている人々の集住地域に押しかけて「朝鮮人は出ていけ」などといった言葉を浴びせ掛ける等の行為であり、これは法律以前のモラルの話でありますし、日本人として恥ずべきことなのです。そのようなことを平気でやる人に対しては政治の側もこれまでに何度も止めるよう要請してきましたが、彼らは聞く耳を持たずに止めませんでしたので、「国はそういった行為を認めませんし、日本人はそのような民族ではありません」という意思を表明するためにヘイトスピーチ解消法を成立させたわけです。

しかし、そういったモラルを法律にするのは非常に難しいですし、何よりも言論の自由・表現の自由を束縛するのは絶対に避けなければなりませんので、（禁止規定や罰則のない）理念法という形での成立に漕ぎ着けたのです。私はヘイトスピーチ解消法の発議者でありますし、この法を解釈する際には国会での発議者の発言が一番の指針となりますので、ヘイトスピーチ解消法が悪用されることのないよう私は細心の注意を払ってきました。

今回の件のように、ヘイトスピーチなどになり得ない発言をヘイトスピーチだと言って騒ぎ立てている様子を見ていると心底呆れてしまいますし、そうやって騒いでいる人らには「馬鹿野郎」と叱り付けたくもなってしまいます。日本政府は、安全保障の要である沖縄の基地の問題について外国や沖縄県民と粘り強い交渉をしながら時間をかけて前に進めてきましたが、そのような国防に関する問題に対して在日コリアンをはじめとした外国人が口を挟むのは主権侵害に他なりませんし、そのような無礼に対して日本人が怒りを感じるのは至極当然のことです。そういった外国人の無礼を法律上は縛ることはできませんし、その意味においては自由なのかもしれませんが、そのことを日本人に批判されたからといって当の外国人が「ヘイトスピーチだ」などと騒ぎ立てるのは筋違いもはなはだしいと言わざるをえません。

自分に都合の悪いことを言われたら「ヘイトスピーチだ」と叫んで差別問題にすり替えるのは非常に卑怯なやり方ですし、そうやって他人の言論を簡単に封殺する一方で自分の言いたいことは相手かまわず好き放題にまくし立てるといえるのは、(ヘイトスピーチ云々以前の)民主主義に反するモラル違反です。言論の自由は保証されなければなりませんし、言論の自由は自分だけが有するものではありません。自分の発言が妨げられてはならないのと同様に、他人の発言にもきちんと耳を傾けなければなりませんし、もしも自分に誤りがあったのであれば素直に認めるのが大人というものです。

朝日新聞や辛淑玉さんは考えを改めるべきですし、東京 MX テレビの対応について詳しくは知りませんが、これにめげずに今後も良い番組を制作していただきたく思います。今回の件でヘイトスピーチ解消法が悪用されることはないと思いますが、ヘイトスピーチ解消法の発議者である私から見ると今回の件はただの馬鹿騒ぎにしか映りません。もっとまともな議論がされるよう切に願います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>